

自己点検・自己評価結果

I 教育理念・教育目標

令和7年度は令和6年と変わらない結果となった。教育理念および教育目標がより生徒・教職員へ浸透していくよう、学院生活の中に常に理念・目標を取り入れ関わるよう工夫する。

II 教育課程

令和7年度は全体的に上昇・横ばいの傾向となった。

しかし、授業概要（シラバス）が生徒が授業内容を理解しやすく、かつ授業内容と一致しているかについてあと一歩努力を要す。生徒の意見も直接聴取し評価していきたい。また実習目標に沿った病棟の選択及び、学習環境・指導体制についても一考したい。

III 教育活動

令和7年度は令和6年度に比べ評価の下降が散見される。

実習におけるインシデント分析および改善策等、評価が低下しており一度対応を再考したい。

今年度、移転について総会後に決定する予定である。耐震強度の問題は改善されるものの、安全な学校運用を行うためにはその他のポイントについても確認すべき点が多く、当該物件の築年数も踏まえ安全計画を練る必要がある。

教材については賃貸物件に残る物品を有効活用しながら、生徒・教職員のモチベーションを高められるよう学習環境及び教材を揃えていきたい。

志願者数・入学者数の確保については最も課題となっている。経営の観点からは最低でも一学年28名を迎えることを目指すべきである。しかし、地域に本当に必要とされる優秀な人材を育成するという教育的観点からは、少数ながらも優秀な人材を育成したい。そのためには、教育の質向上を目指し尽力したい。

地域のニーズも踏まえながら、次年度は20名の入学者を迎えられるよう努力したい。